

令和6年端境期の需給状況に関する分析

令和6年10月
農林水産省

令和5年産米の民間在庫量の減少の背景や足元の販売状況について

【出荷段階（集荷団体への聞き取り）】

- 令和5年産の集荷において、生産量の減少に伴い集荷量が減少し、一方で、販売は前年を上回って好調が継続したことから、それとともに在庫量も減少。
- また、北海道、東北、関東の一部の引き合いが強かった銘柄や、販売が好調であった比較的低価格帯（業務用向け）の銘柄における在庫が大きく減少。

【販売段階（卸売業者への聞き取り）】

- 令和4年産米の持ち越し在庫が少なかった中で、小売向けの販売が一段と好調となったため、手持ち在庫を消化して販売に充てたが、それに対して、令和5年産米の十分な原料手当ができず在庫が減少。
- 令和5年産米の精米歩留まりの低下により、例年より原料玄米の消費が進んだことも在庫減少の要因の一つと考えられる。
- 年明け以降の小売向けの販売好調を受け供給量を増やした結果、昨年より小売向けの在庫ストックが目減り（小売向け在庫比率の減少）。業務用向けの在庫ストックから振り替えて小売向けの供給を維持した。
- 在庫量は前年より少なかったものの、計画的な供給を図ることにより、新米が出回るまでの間何とか供給できる見込みだったが、8月の南海トラフ地震情報等による平年を大きく超える買い込み需要により、スーパー等での欠品が生じるような事態となった。
- 令和6年10月以降、取引先からのオーダーに制限をかけずに販売。一方で、特売を行っても売れ残りが出るなど売れ行きは鈍っており、前年同期を下回って推移。今後は、販売価格の高騰から消費量が減少し、販売は鈍化すると見込んでいる。

【小売段階（スーパー、米穀店の全国団体等への聞き取り）】

- 今回の米の品薄状況については、消費者心理として、全体需給はひっ迫していないといわれても、店頭から消えると不安に感じ買いためが行われた結果。
- 特に、8月から9月にかけての急激な販売量の増加やそれによる店頭の欠品については、家庭内備蓄の需要もあったが品薄を伝える情報が広まることによる影響が大きかった。毎日一定量を入荷しても開店後すぐに売り切れる状況であった。
- この仮需の反動で9月後半あたりから販売量は落ちている。価格高騰の影響もあるのではないか。5年産米から1.5倍となった価格が消費者に受け入れられるかは、今後の販売動向を見ないとわからない。
- 米の需給状況（在庫状況や仕入れの見通し等）は、定期的に販売業者にも情報提供してもらいたい。また、勉強会のような情報交換の場などがあれば販売店などにも正確な情報が伝わるし、販売店等を通じて消費者への情報発信も可能になる。
- 自然災害は回避が難しいが、今回の様な騒動はある程度回避できると考えている。農水省の情報発信に期待する。

民間在庫量と需要量の比率（在庫率）の推移

- 出荷・販売段階に農家在庫等を加えた令和6年6月末の民間在庫の総合計は、棚上備蓄方式となった平成23/24年以降最も少ない153万トンとなったが、需要量の減少により、令和6年6月末の在庫量を年間の需要量で割った比率（在庫率）は21.7%と、平成24年6月末の22.1%と同水準となった。

【在庫率の推移】

年	需要実績	上段：在庫量（出荷段階＋販売段階） 下段：在庫率（月末の在庫量÷年間の需要量）												【指針ベース】 6月
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
20/21	824	66 8.0%	48 5.8%	134 16.3%	325 39.5%	351 42.6%	346 42.0%	322 39.1%	293 35.6%	257 31.2%	221 26.8%	195 23.7%	148 18.0%	212 25.8%
21/22	814	113 13.9%	93 11.4%	164 20.1%	349 42.9%	380 46.7%	372 45.7%	347 42.6%	320 39.3%	267 32.8%	228 28.0%	191 23.5%	154 18.9%	216 26.5%
22/23	820	118 14.4%	102 12.4%	212 25.9%	351 42.8%	372 45.4%	363 44.3%	339 41.3%	304 37.1%	238 29.0%	200 24.4%	156 19.0%	118 14.4%	181 22.0%
23/24	813	83 10.2%	55 6.8%	134 16.5%	298 36.6%	327 40.2%	320 39.3%	291 35.8%	259 31.8%	224 27.5%	185 22.7%	147 18.1%	113 13.9%	180 22.1%
24/25	781	78 10.0%	62 7.9%	167 21.4%	337 43.1%	357 45.7%	351 44.9%	324 41.5%	293 37.5%	264 33.8%	229 29.3%	190 24.3%	157 20.1%	224 28.6%
25/26	787	120 15.3%	104 13.2%	210 26.7%	368 46.8%	393 50.0%	389 49.5%	358 45.5%	330 42.0%	291 37.0%	258 32.8%	223 28.3%	190 24.2%	220 28.0%
26/27	783	119 15.2%	103 13.2%	198 25.3%	344 44.0%	368 47.0%	365 46.6%	343 43.8%	314 40.1%	280 35.8%	243 31.1%	208 26.6%	168 21.5%	226 28.9%
27/28	766	130 17.0%	112 14.6%	184 24.0%	321 41.9%	341 44.5%	337 44.0%	314 41.0%	287 37.5%	254 33.2%	218 28.5%	183 23.9%	147 19.2%	204 26.6%
28/29	754	114 15.1%	93 12.3%	177 23.5%	314 41.6%	338 44.8%	329 43.6%	306 40.6%	282 37.4%	248 32.9%	212 28.1%	177 23.5%	141 18.7%	199 26.4%
29/30	740	108 14.6%	88 11.9%	155 21.0%	283 38.3%	315 42.6%	311 42.0%	288 38.9%	263 35.6%	234 31.6%	201 27.2%	167 22.6%	134 18.1%	190 25.7%
30/元	735	102 13.9%	87 11.8%	151 20.6%	288 39.2%	305 41.5%	301 41.0%	282 38.4%	258 35.1%	227 30.9%	192 26.1%	161 21.9%	131 17.8%	189 25.7%
元/2	714	99 13.9%	79 11.1%	161 22.5%	294 41.2%	315 44.1%	318 44.5%	295 41.3%	266 37.2%	233 32.6%	204 28.6%	178 24.9%	154 21.6%	200 28.0%
2/3	704	119 16.9%	101 14.3%	190 27.0%	324 46.0%	344 48.9%	342 48.6%	321 45.6%	293 41.6%	265 37.6%	230 32.7%	199 28.3%	173 24.6%	218 31.0%
3/4	702	138 19.7%	118 16.8%	214 30.5%	330 47.0%	351 50.0%	349 49.8%	326 46.5%	299 42.6%	270 38.5%	238 33.9%	204 29.1%	172 24.5%	218 31.0%
4/5	691	142 20.5%	122 17.7%	199 28.8%	313 45.3%	330 47.7%	328 47.5%	306 44.3%	280 40.5%	251 36.3%	219 31.7%	186 26.9%	153 22.1%	197 28.4%
5/6	705	123 17.4%	104 14.8%	199 28.2%	289 41.0%	303 43.0%	298 42.3%	274 38.9%	244 34.6%	214 30.4%	180 25.5%	145 20.6%	115 16.3%	153 21.7%

※22/23年以前は、政府備蓄米の運営を回転備蓄方式で実施していたため、政府備蓄米がこの他に主食用米として販売されている。

出荷(集荷業者)＋販売(卸売業者)段階の民間在庫量の月別の推移

- 令和5年7月から6年6月にかけての民間在庫量の月別の推移は、出荷（集荷業者）・販売段階（卸売業者）の計で前年から減少する月が多く、出来秋から端境期にかけて出回りは堅調に推移。なお、平成23/24年の際は、平成23年7月から24年6月にかけて毎月前年から減少しているが、その前年から減少が継続していたため、前年と比べた減少幅は端境期にかけて縮小。

【民間在庫量の推移(出荷＋販売段階) (速報)】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
22/23年	118	102	212	351	372	363	339	304	238	200	156	118
対前年差	+5	+9	+48	+1	▲8	▲8	▲8	▲15	▲29	▲29	▲34	▲36
23/24年	83	55	134	298	327	320	291	259	224	185	147	113
対前年差	▲36	▲47	▲78	▲53	▲46	▲43	▲48	▲46	▲14	▲14	▲9	▲5
24/25年	78	62	167	337	357	351	324	293	264	229	190	157
対前年差	▲5	+8	+33	+39	+30	+30	+33	+34	+40	+43	+43	+44
25/26年	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190
対前年差	+42	+42	+43	+32	+36	+39	+34	+36	+27	+29	+33	+33
26/27年	119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168
対前年差	▲1	▲2	▲12	▲24	▲25	▲24	▲15	▲16	▲11	▲15	▲15	▲21
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲21
28/29年	114	93	177	314	338	329	306	282	248	212	177	141
対前年差	▲16	▲19	▲7	▲7	▲3	▲8	▲8	▲6	▲6	▲5	▲7	▲7
29/30年	108	88	155	283	315	311	288	263	234	201	167	134
対前年差	▲6	▲5	▲22	▲30	▲22	▲18	▲18	▲18	▲13	▲11	▲10	▲6
30/元年	102	87	151	288	305	301	282	258	227	192	161	131
対前年差	▲6	▲1	▲4	+5	▲10	▲10	▲6	▲5	▲7	▲9	▲5	▲3
元/2年	99	79	161	294	315	318	295	266	233	204	178	154
対前年差	▲3	▲9	+10	+6	+10	+17	+13	+7	+6	+11	+16	+23
2/3年	119	101	190	324	344	342	321	293	265	230	199	173
対前年差	+20	+21	+29	+30	+29	+24	+26	+27	+31	+27	+21	+19
3/4年	138	118	214	330	351	349	326	299	270	238	204	172
対前年差	+19	+17	+24	+6	+6	+7	+5	+6	+6	+7	+5	▲1
4/5年	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153
対前年差	+4	+4	▲15	▲18	▲21	▲21	▲20	▲19	▲20	▲18	▲19	▲18
5/6年	123	104	199	289	303	298	274	244	214	180	145	115
対前年差	▲20	▲18	±0	▲23	▲26	▲31	▲32	▲36	▲37	▲39	▲40	▲38
出荷段階	95	78	161	235	249	246	228	202	171	139	112	84
対前年差	▲21	▲20	▲5	▲27	▲28	▲31	▲31	▲34	▲33	▲36	▲38	▲37
販売段階	27	26	38	54	54	52	46	42	43	41	34	31
対前年差	+1	+2	+5	+3	+2	±0	±0	▲3	▲3	▲3	▲3	▲2
6/7年	82	65	150									
対前年差	▲40	▲39	▲49									
出荷段階	58	44	114									
対前年差	▲38	▲34	▲47									
販売段階	25	21	36									
対前年差	▲3	▲5	▲2									

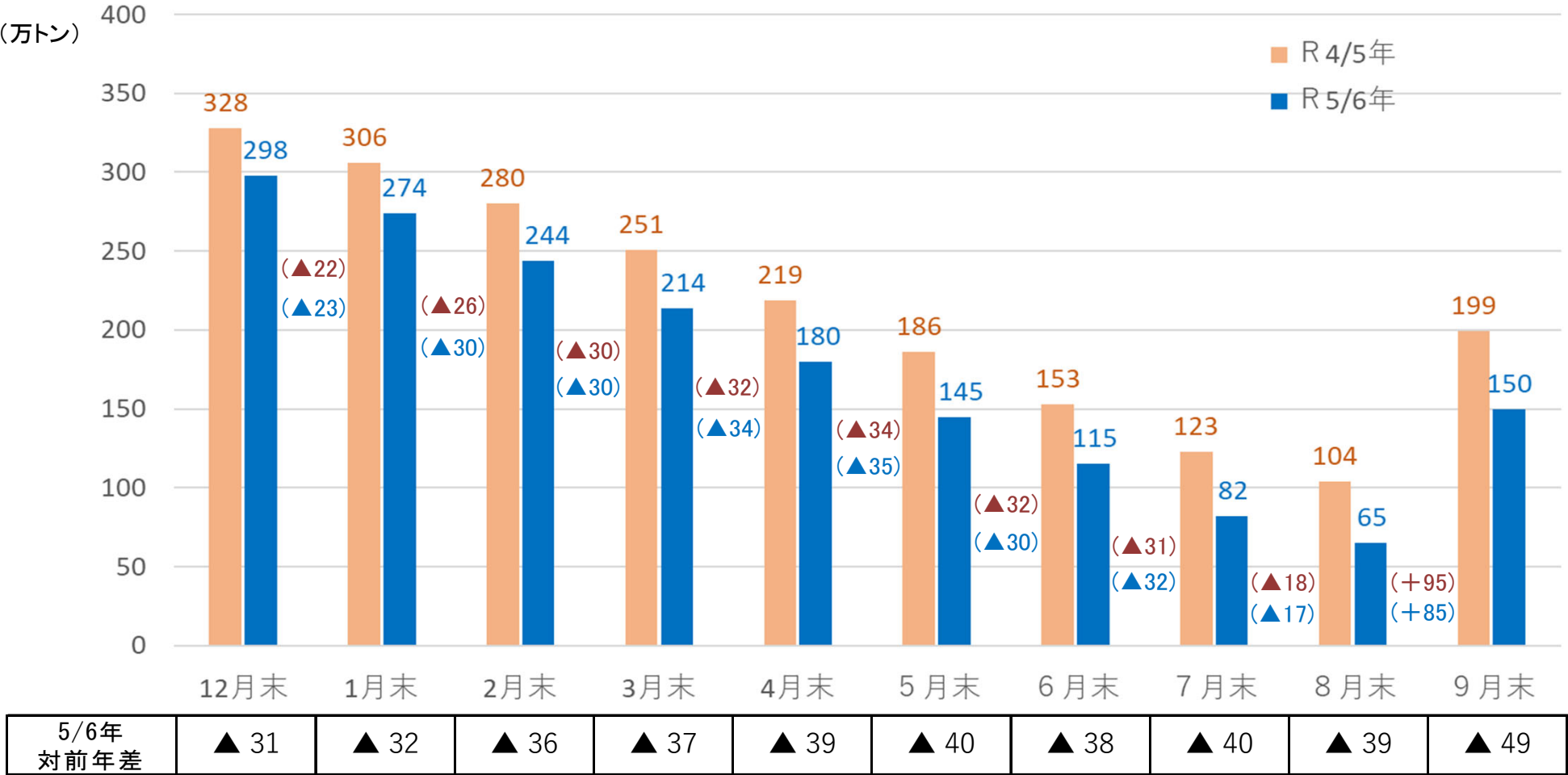
資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
4 期間については、5/6年であれば、令和5年7月～6年6月である。
5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。

出荷(集荷業者)＋販売(卸売業者)段階の民間在庫量の月別(令和5年12月～6年9月)推移

○ 令和5年の年末から令和6年の端境期にかけての出荷(集荷業者)・販売(卸売業者)段階の民間在庫量の月別の在庫の推移は、7月までは毎月前月差▲30万トン程度で推移し、8月は▲17万トンとなったが、在庫量の減少の推移としては、昨年と同様の推移であり、6年8月の新米(6年産米)の出回りは昨年と比して同水準であった。

【12月～9月末の民間在庫量の推移】



民間在庫量に占める業務用向けと小売向けとの比率について(卸売業者からの聞き取り)

- 一般的に、業務用向けへの米の供給は、古米から新米への切り替え時期が遅く（生産年翌年12月から翌々年3月頃までが多い）、他方、スーパー等の小売向けへの米の供給は、新米が出回るタイミングで古米から切り替わる。
- 民間在庫量における業務用向けと小売向けとの比率について卸売業者10社から聞き取ったところ、卸売業者ごとにその比率は大きく異なり、最も在庫量が少ない端境期の令和6年8月末時点においても、必ずしも全ての卸売業者が、小売向けの比率が少なかったものではない。
- また、ヒアリングを行った10社中4社が、令和6年4月以降に業務用向けの契約分を取り崩して小売向けに販売を行った。

<卸売業者の在庫の仕向け別割合(聞き取り)>

	業務用向け(青):小売向け(赤)
令和5年12月末	2:8 ~ 7:3
令和6年3月末	1:9 ~ 8:2
令和6年6月末	2:8 ~ 8:2
令和6年8月末	1:9 ~ 9:1

集荷業者による集出荷数量(前年同期比)

- 令和6年産米の集出荷状況について、集荷業者の全国団体に聞き取ったところ、生産者等からの集荷状況は、8月30日までの累計で前年同期比120%と前年を上回ったが、その後前年を下回るペースで推移し、10月20日までの累計では前年同期比79%となっている。
- 一方で、集荷業者から卸売業者等に対する供給は、8月30日までの累計で前年同期比194%、9月30日までの累計で同186%、10月20日までの累計で同132%と前年を上回って推移。

【集荷業者による令和6年産米の集荷、出荷数量(前年同期比)】(速報値)

	8月30日までの累計 (前年同期比)	9月10日までの累計 (前年同期比)	9月20日までの累計 (前年同期比)	9月30日までの累計 (前年同期比)	10月10日までの累計 (前年同期比)	10月20日までの累計 (前年同期比)
集荷 (生産者等 ⇒ 集荷業者)	120%	78%	77%	77%	85%	79%
出荷 (集荷業者 ⇒ 卸売業者等)	194%	198%	210%	186%	160%	132%

卸売業者による精米の販売数量(前年同期比及び前週比)

- 8月以降のスーパー等への精米の販売数量について、大手卸売業者に聞き取ったところ、8月の第1週、第2週は前年以上の水準となっているが、第3週以降は前年を下回る水準で推移。
- 一方、新米（令和6年産米）については、8月以降前年に比して前倒しで供給がなされ、週を追うごとに供給を増やしていく中で、9月中旬までは前年を大きく上回る水準で推移したが、9月下旬以降は前年を下回る水準で推移。

【大手卸売業者（10社・流通シェア約3割）の8月以降のスーパー等への精米の販売数量】（速報値）

【前年同期比】	8/3～8/9	8/10～8/16	8/17～8/23	8/24～8/30	8/31～9/6	9/7～9/13	9/14～9/20	9/21～9/27	9/28～10/4	10/5 ～10/11	10/12 ～10/18	10/19 ～10/25 (見込み)
販売数量	107%	103%	99%	97%	92%	75%	90%	76%	73%	77%	77%	79%
うち6年産米	143%	135%	189%	225%	253%	209%	221%	100%	88%	81%	81%	79%

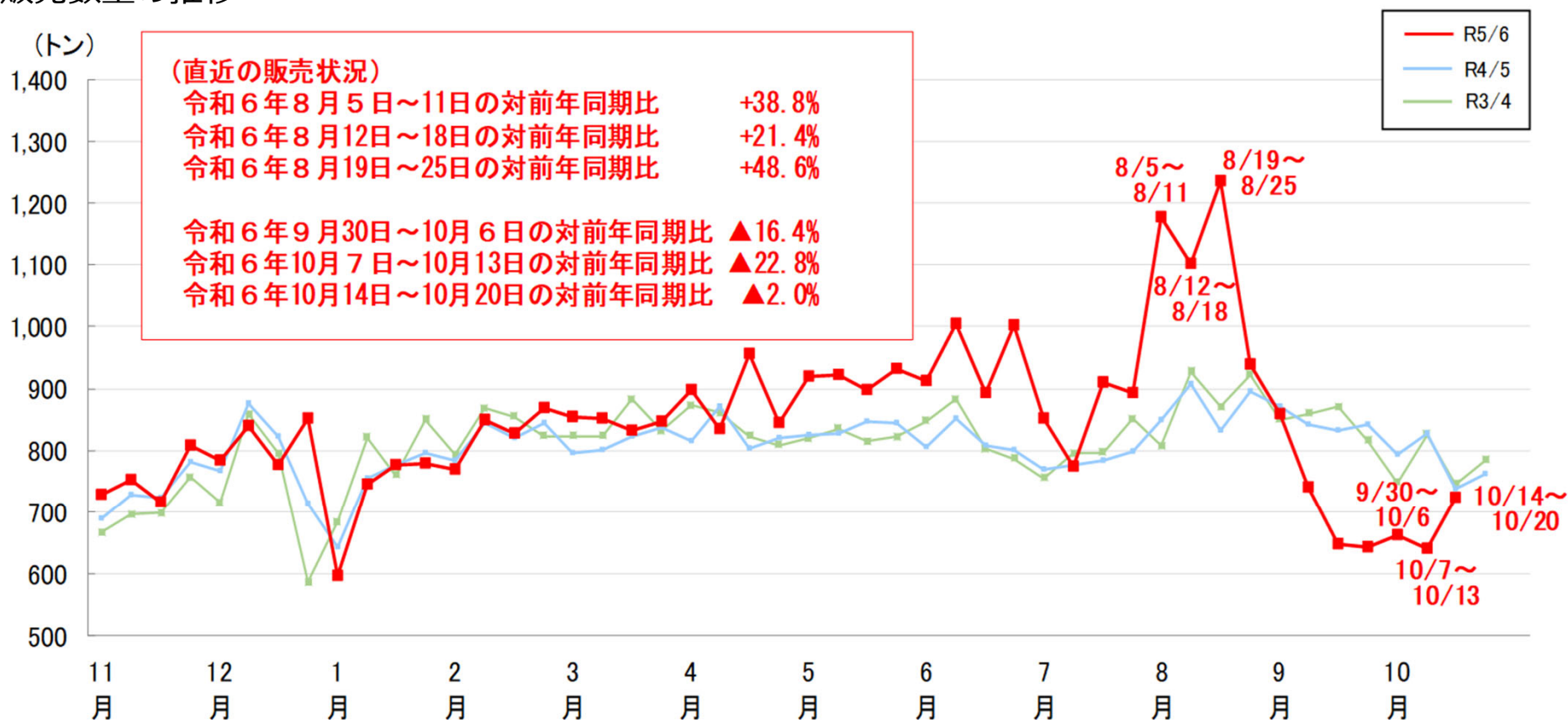
【前週比】	8/3～8/9	8/10～8/16	8/17～8/23	8/24～8/30	8/31～9/6	9/7～9/13	9/14～9/20	9/21～9/27	9/28～10/4	10/5 ～10/11	10/12 ～10/18	10/19 ～10/25 (見込み)
販売数量	105%	92%	98%	100%	107%	86%	102%	95%	99%	94%	104%	99%
うち6年産米	219%	105%	152%	178%	174%	105%	104%	106%	111%	97%	117%	102%

注：6年産米については、9/28～10/4までは9社、10/5～10/11以降は8社の集計値。

スーパーでの販売数量の推移(POSデータ)

- 令和6年4月以降のスーパーでの精米の販売量は、令和4年及び5年と比較して堅調に推移。
- 令和6年8月は南海トラフ地震臨時情報(8月8日発表)、その後の地震、台風等による買い込み需要が発生したこと等により、8月5日以降伸びが著しい週が3週継続。9月2日以降の週は前年を下回る水準で推移し、10月14日の週は前年同期比▲2.0%。

(1) 販売数量の推移



資料:(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注1:(株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,000店舗のスーパーから購入したデータに基づくものである。

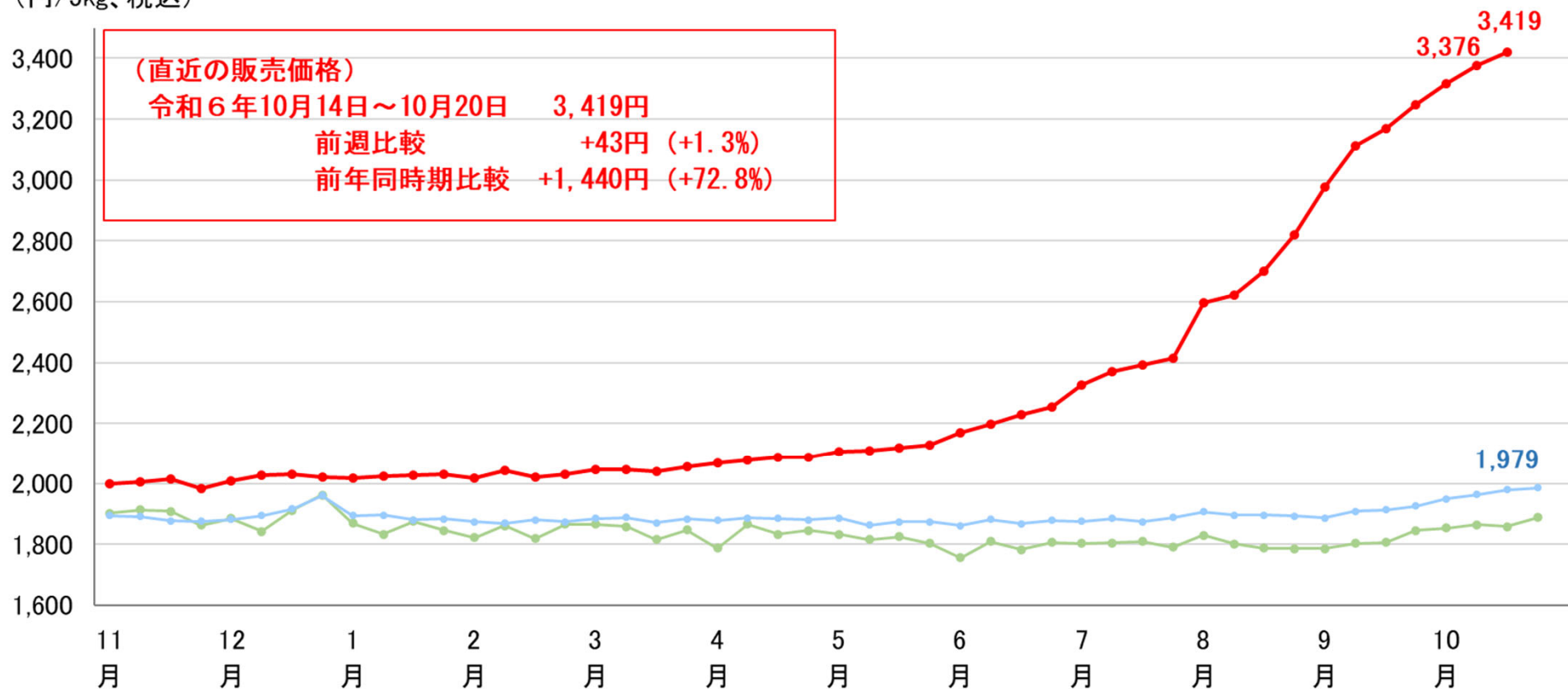
注2:週次データを月ベースに当てはめているため、実際の月とは若干異なる場合がある。

スーパーでの販売価格の推移(POSデータ)

- スーパーでの精米の販売価格については、令和4年及び5年と比較して、4月以降徐々に右肩上がりに上昇して推移する中で、8月以降大きく上昇して推移。10月14日の週は前年同期比+72.8%となっている。

(2) 販売価格の推移

(円/5kg、税込)



資料: (株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

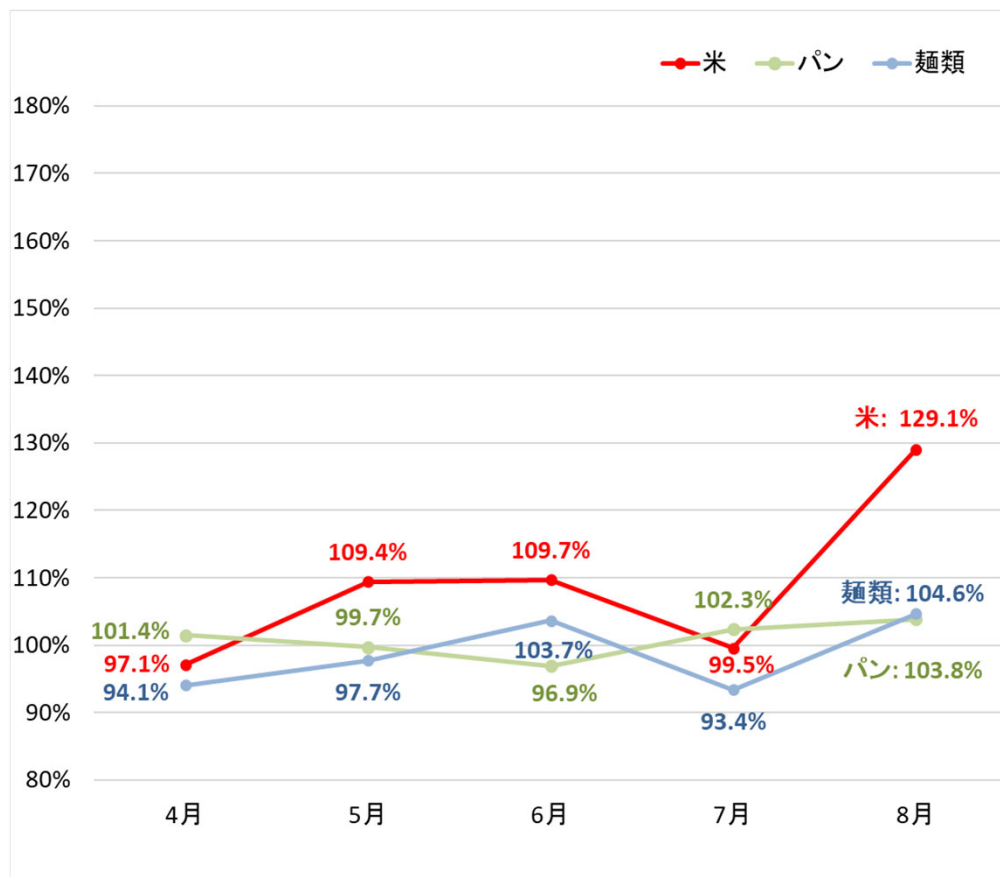
注1: (株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,000店舗のスーパーから購入したデータに基づくものである。

注2: 週次データを月ベースに当てはめているため、実際の月とは若干異なる場合がある。

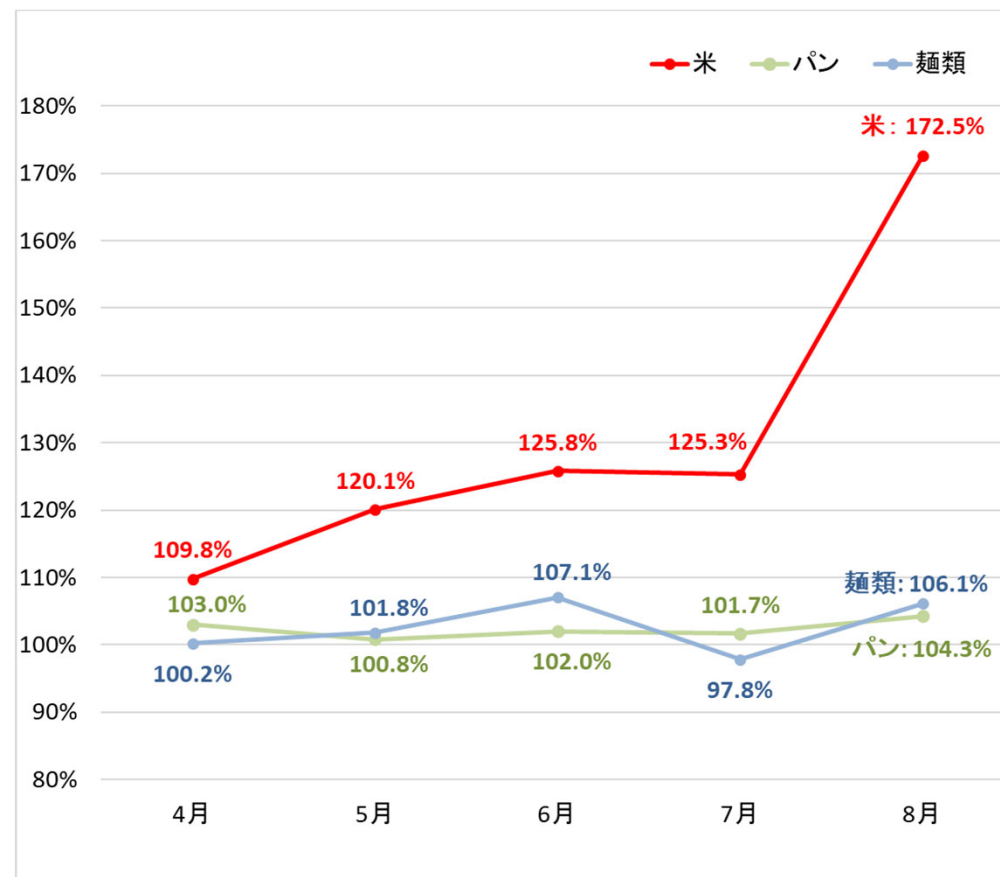
1世帯当たりの購入数量・支出金額の推移(家計調査)

- 令和6年4月以降の米の購入数量については、前年同期比で4月は前年を下回っていたものの、5、6月は前年を1割程度上回って推移し、7月は前年と同程度、8月は3割程度増加している。
- 支出金額については、前年同期比で4月は1割程度増加し、5～7月は2割程度増加、8月は7割程度増加している。

(1) 1世帯当たり1か月間の購入数量の推移(前年同期比)



(2) 1世帯当たり1か月間の支出金額の推移(前年同期比)



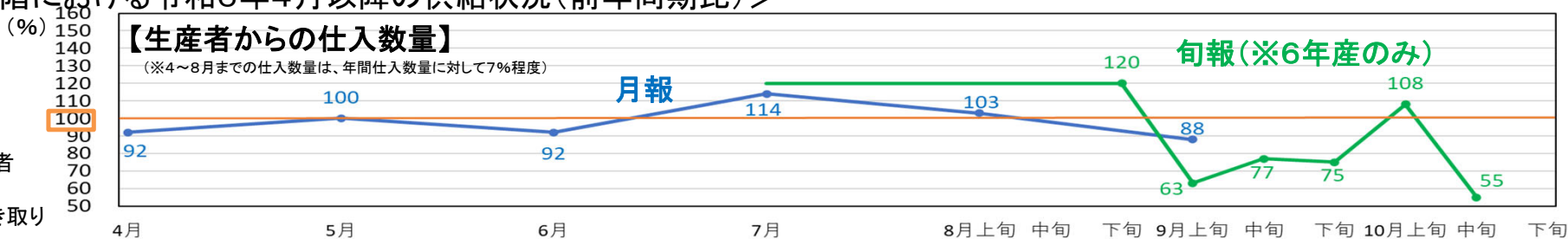
資料：総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

それぞれの流通段階における供給状況（前年同期比）

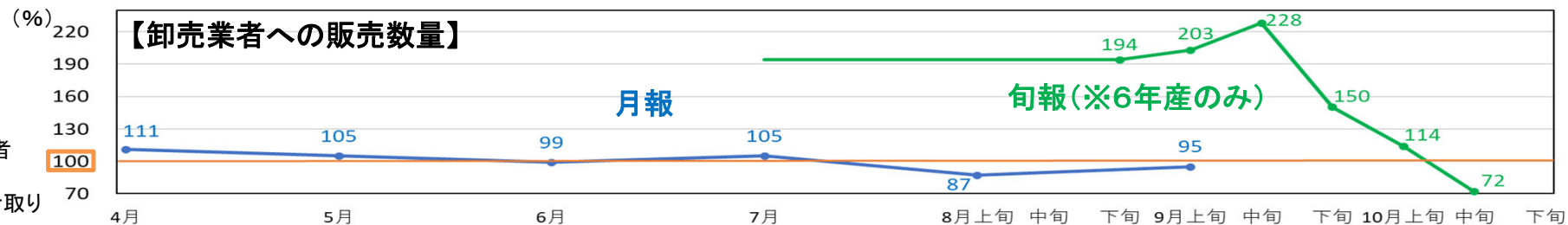
- 一般的に、業務用向けへの米の供給は、古米から新米への切り替え時期が遅く（生産年翌年12月から翌々年3月頃までが多い）、他方、スーパー等の小売向けへの米の供給は、新米が出回るタイミングで古米から切り替わる。
- 各流通段階における供給状況は、集荷段階から小売段階までは、令和6年7月までは、昨年と同程度から昨年以上に供給が行われていた。
- そのような中で、8月の南海トラフ地震臨時情報等を受け、小売段階で消費者への販売（消費者の購入）が前年同期比で2割から4割を超えて増加したことから、各流通段階からの供給が追いつかない状況が発生した。

＜それぞれの流通段階における令和6年4月以降の供給状況（前年同期比）＞

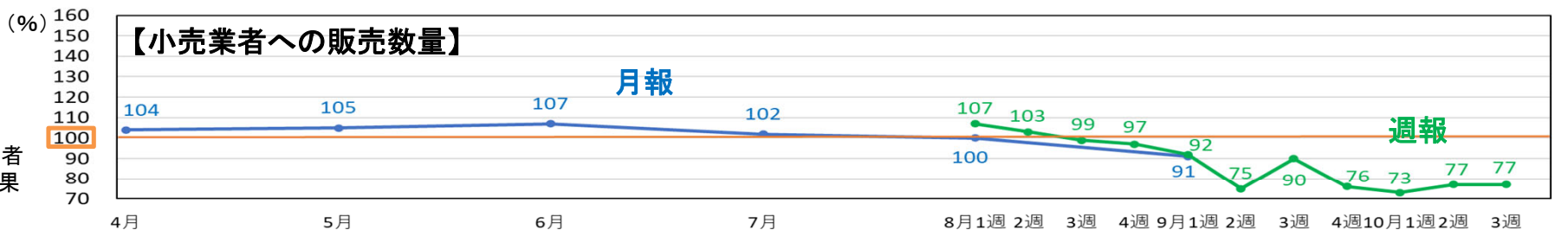
① 生産者等
↓
集荷業者等



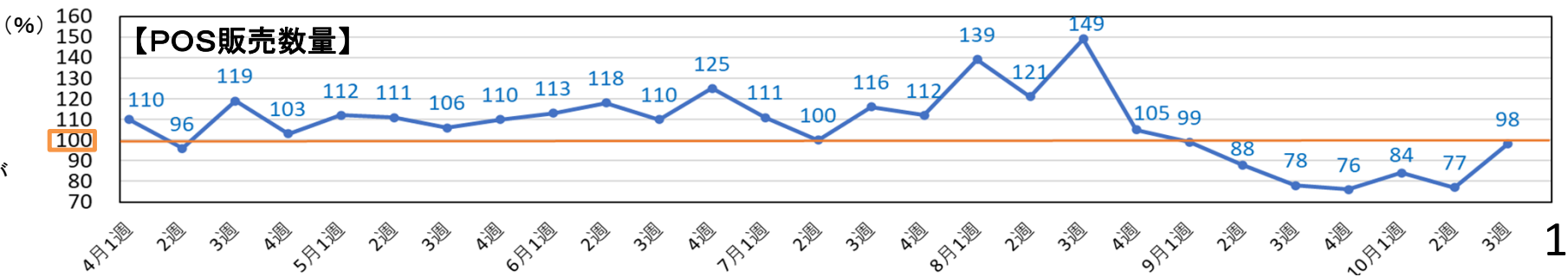
② 集荷業者等
↓
卸売業者等



③ 卸売業者等
↓
小売業者等



④ 小売業者等
↓
消費者



米の円滑な流通に関する取組状況

		令和6年 3月	4～6月	7月	8月	9月
情報収集・発信	通常 の取組	3月5日食糧部会 〔基本指針の見直し〕		7月30日食糧部会 〔基本指針の策定〕		
		「米に関するマンスリーレポート」による情報提供（毎月1回） 〔全国の需給見通しや在庫量等の他、産地・銘柄別の価格動向、都道府県別の民間在庫量、消費動向などのデータを掲載〕				
	今般 の特別な取組					卸売業者へ調査報告依頼 〔卸売業者へ令和6年7月下旬以降の米の仕入れや販売状況等について、週単位で調査報告を依頼〕 農水省HPにて情報提供 〔米の需給の現状についてデータを整理・公表〕
新米の 出回り				新米の出回り 新米が8月頃から徐々に 出回り始め、9月から本格的に出回り（平年より1週間程度収穫が早い）		
関係団体との意見交換・働きかけ		5年産、6年産の流通の円滑化に関するヒアリング・働きかけ				
		◆ 集荷業者、卸売業者等に対して定期的にヒアリングを実施 （令和6年4月以降 生産者団体:21回、卸売業者等:58回、小売業者等:20回、加工用米関係者:15回） 生産者団体:10回 卸売業者等:9回 小売業者等:10回 加工用米関係者:10回 生産者団体:2回 卸売業者等:8回 小売業者等:4回 加工用米関係者:2回 生産者団体:1回 卸売業者等:17回 小売業者等:5回 加工用米関係者:3回 生産者団体:8回 卸売業者等:24回 小売業者等:1回 ◆ 8月27日要請 生産者団体、卸売業者等に対して、主食用米の円滑な流通に関して要請 ◆ 9月6日要請 生産者団体、卸売業者等に対して、主食用米の集荷・販売等への一層の対応について改めて要請				
		6年産の需要に応じた生産の働きかけ ◆ 全国会議（令和5年9月～計5回） ◆ 生産者、県農業再生協議会、地域農業再生協議会等に対して、産地ごとの意見交換（キャラバン）を実施 ◆ 生産者団体や地方自治体とも連携し、県農業再生協議会やJA以外の幅広い集荷業者や農業法人等に対してもキャラバンを実施（令和5年9月～令和6年8月:4,244回）				

12

【分析で明らかになったこと】

- ✓ 各流通段階における供給状況は、昨年と同程度から昨年以上に供給が行われていたが、8月の南海トラフ地震臨時情報等を受けた買い込み需要に各流通段階からの供給が追いつかない状況が発生した。
- ✓ 今年の春以降から情報収集や働きかけは行っていたが、品薄に関しての特別な情報発信や流通関係者への働きかけは品薄状況が顕在化した8月下旬からの取組となった。
- ✓ 在庫量に占める業務用向けと小売向けとの比率は卸売業者によって大きく異なり、端境期において、必ずしも小売向けの比率が少なかった卸売業者ではなかった。また、業務用向けの契約分を取り崩して小売向けに販売を行った卸売業者も存在。

【分析を受けた対応】

消費者、流通関係者等に対する適時・適切に把握し、情報発信するため、以下の取組を行う。

- ① 主要集荷業者・卸売業者に対する端境期前（6月以降）から端境期（9月中旬）までの集荷量、販売量、在庫量の週次調査の実施
- ② 卸売業者等やスーパー・米穀店等への流通実態に関する定期的なヒアリング
- ③ 米の流通の現状のポイントをまとめて発信するなど消費者にもわかりやすい情報発信
- ④ 米の需給に関する基本的な情報についての月例記者ブリーフィングの開催